

日本の若者の意識の変容

チムチェンコ・ガリーナ

0. はじめに

21世紀が始まりました。20世紀にあったいくつかの世界戦争、ITの急激な飛躍、インターネットの普及のおかげで国々の国境が見えなくなりかけて、国々の文化もかわり始めました。しかし、それぞれの国々で昔からの文化、人々の考え方の特徴のためにそれぞれの国では独自の文化が起こります。しかし、社会の年齢グループの中で若者たちは一番早くその変化を感じて、受け入れます。自分の家族に対して責任のない若い人にとって全ての生活は明るくて、色々な可能性がいっぱいある将来なので若者はいつも新しいものに興味があります。

昔、日本は閉鎖的で、集団主義の保守的な強い国でしたが現在、世界ではどこでもグローバル化が行われています。勿論、日本は経済的にも強い国だから、日本でもその過程が行われています。グローバル化は国々の経済と文化と人間の意識に影響を与えています。日本の場合はその過程が普通と違って、特別に行われています。グローバル化以外に日本は50年間にわたって米国文化の影響をうけつづけてきました。その影響で日本の若者の意識が変化してきました。

1. 安部公房

世界の心理学者の見解によると、社会において人々は皆役割を演じます。〔両親の役割や、兄弟とか姉妹の役割などです〕。換言すれば、皆はマスクがあります。ヨーロッパ人には日本人はマスクをしているように見えます。その一番著しい例は日本人々がほとんど一度も“いいえ”を言わないこと。いくら“いいえ”を言いたくても“いいえ”を言えません。自分の相手に対する否定的な感情をかくす“好意のマスク”も持っているようです。

有名で偉大な日本の作家、安部公房は戦後“他人の顔”という本を書いてアメリカが日本に与えた影響の結果を初めて明らかにしました。主人公は実験の失敗のために顔を失い、心理的似とても苦しみました。安部公房は“人の顔が人々の間の細道”と言っていますが、これは日本人々がマスクをしていて、自分の感情を他人に見せないということと矛盾するように思えます。

2. 教育

先ず第一に、若者の意識に影響を与えるのは教育です。現在、日本ではゆとりとつめこみのどちらの教育が必要か話し合いが続いています。しかし、日本の教育には戦後大きい変化が起こりました。米国文化が日本に個人主義と個人的な自己中心主義のアイデアを持ち込みました。そして、米国文化が日本の教育にも大きな影響を与えました。これは戦後から現在までの教育のスローガンを分析すると分かりやすいでしょう。

- (1947—1958年) 経験重視・自主性
- (1958 1963年) 知識重視・管理強化
- (1963 1968年) 能力主義・エリート養成
- (1968 1973年) 理数教育の現代化
- (1973 1979年) ゆとりと充実
- (1979 1989年) 個性重視の原則
- (1989 1991年) 個性を生かす教育
- (1991 2000年) 心の教育
- (2000年から) 個性を伸ばす教育・奉仕生活の義務化

現在、日本では学校の生徒を英語とアメリカの文化を勉強させるために派遣する色々な留学プログラムがあります。例えば、1995年の10月に日本の新潟高等学校の14人の学生がTomazu 高等学校とCarbondale 東高等学校に留学しました。

若者は個人主義を知ってしまったら、もう集団主義で保守的な強い社会を創造することは出来ないでしょう。

3. フリーター

日本労働研究機構では1999年度より「若者の就業行動研究会」を設け、若者の就業行動変化の背景を広く検討しています。本調査はその一環として「フリーター」と呼ばれる若者の就業行動の実態と意識を把握し、その背景を探ったものです、主な調査の目的は次の5点です。

- .. 誰がなぜ「フリーター」になるのか
- .. 「フリーター」はどのような生活をしているのか
- .. 「フリーター」はどのような就業意識を持っているのか
- .. キャリア形成・能力開発の問題はあるのか
- .. 学校から職業への移行の仕組みに問題があるのか

② 誰がなぜ「フリーター」になるのか

- * フリーターの6割は女性、年齢層は20歳代前半層までが中心。
- * フリーターには「モラトリアム型」「夢追求型」「やむを得ず型」の3類型。
細分化すれば7つの類型。

- (1) モラトリアム型 : 離学モラトリアム型 離職モラトリアム型
- (2) 夢追求型 : 芸能志向型 職人・フリーランス志向型
- (3) やむを得ず型 : 正規雇用志向型 期間限定型 プライベート・トラブル型

フリーター時の学歴(単位%、()内は実数)

	合計(人)	高校 中退	高校 卒業	専門学校 ・短大・ 訓練校 中退	専門学校 ・訓練校 卒業	短大 卒業	大学 中退	大学 卒業	大学院 中退・ 卒業
全体	100.0(97)	4.1	47.4	11.3	7.2	9.3	6.2	13.4	1.0
【性別】 男性	100.0(34)	2.9	50.0	5.9	0.0	0.0	8.8	32.4	0.0
女性	100.0(63)	4.8	46.0	14.3	11.1	14.3	4.8	3.2	1.6

③ 「フリーター」はどのような生活をしているのか

- * 週労働日数は平均4.9日、月収は平均139,000円。
- * 3分の2が親と同居、同居者の半数以上は何らかの経済的負担。

④ 「フリーター」はどのような就業意識を持っているのか

- * フリーターが語るメリットは「自由」「時間の融通がきく」「休みが取りやすい」「様々な経験ができる」。デメリットは「収入が少ない」「社会に認められていない」「不安」「不安定」。正社員は「金銭面」で良く、「安定」しているが、「拘束」されるという認識。
* 「やりたいこと」に強いこだわり。

⑤ キャリア形成・能力開発の問題はあるのか

- * 多くの者に将来のキャリア形成への意識はあるが、消極的な現状肯定者や、

具体的で有効な取り組みのない者も。

- * フリーターの就業職種は限定されており、基本的なソーシャル・スキル以外の職業能力形成に結びついている場合は少ない。

* 20歳代後半にはフリーターに限界を感じ、「焦り」も。

・ 学校から職業への移行の仕組みに問題があるのか

- * 高校時代には進学者・就職者とも、職業選択についての意識が不明確。
- * 進学に偏らない進路指導、企業人の関与、詳しい職業情報、早期の段階からの進路指導などを求める声も。

・ 求められる支援

- * 職業意識の啓発、職業ガイダンスの充実、フリーターから正規雇用への移行支援が必要。

フリーターの類型

類型	概要	件数	割合
1. モラトリアム型			
(1) 離学 モラトリアム型	職業や将来に対する見通しを持たずに教育機関を中退・修了し、フリーターとなったタイプ	29 男10, 女19	男性の4割 女性の4割
(2) 離職 モラトリアム型	離職時に当初の見通しがはっきりしないままフリーターとなったタイプ	9 男4, 女5	
2. 夢追求型			
(3) 芸能志向型	バンドや演劇、俳優など、芸能関係を志向してフリーターとなったタイプ	16 男5, 女11	男性の2割 女性の3割
(4) 職人・フリーランス志向型	ケーキ職人、バーテンダー、脚本家など、自分の技能・技術で身を立てる職業を志向してフリーターとなったタイプ	11 男2, 女9	
3. やむを得ず型			

(5) 正規雇用志向型	正規雇用を志向しつつフリーターとなったタイプ、特定の職業に参入機会を待っていたタイプ、および比較的正社員に近い派遣を選んだタイプ	13 男5, 女8	男性の4割 女性の3割
(6) 期間限定型	学費稼ぎのため、または次の入学時期や就職時期までといった期間限定の見通しを持ってフリーターとなったタイプ	13 男6, 女7	
(7) プライベート・トラブル型	本人や家族の病気、事業の倒産、異性関係などのトラブルが契機となってフリーターとなったタイプ	6 男2, 女4	

4. “パラサイト・シングル” — “日本の独特の現象”

“パラサイト・シングル” — 就職はしたけれど両親の家に住み続け、両親に依存している若い成人した人の数が日本では段々増えています。Masahiro Yamada、Tokyo Gakugei University の教師はその現象を現在日本の若者の中にそびえるトレンドと定義しました。日本の経済と社会のある局面のために多くの成人した若い人々がそのようなライフスタイルを選んでる。

“パラサイト・シングル” という言葉は1997年にはじめて現れました。

Yamada は1995年の“パラサイト・シングル” の数を以下のように概算しました。

日本での“パラサイト・シングル”の数量、1995
(多数(100万)とパーセントで)

	パラサイト			男子パラサイト			女子パラサイト		
	合計	シングル	%	合計	シングル	%	合計	シングル	%
(20-24才)	9.9	6.1	62.1	5.0	3.0	59.3	4.9	3.2	65.1
(25-29才)	8.8	3.3	37.5	4.5	1.8	39.9	4.3	1.5	35.1
(30-34才)	8.1	1.4	17.4	4.1	0.9	21.7	4.0	0.5	13.1
合計	26.8	10.9	40.5	13.6	5.7	41.6	13.2	5.2	39.4

なぜ“パラサイト・シングル” は両親と一緒に暮らすのでしょうか。

戦後大勢の人々が都市に引越しました。都市に住む人々の子供は都市の中で教育を受け職を見つけることができるためその都市を離れる必要がありませんでした。それは経済的にとても便利です。掃除もご飯の用意もいつもお母さんがしてくれますし、アパートを借りて高い屋賃を払う必要もありません。

日本のライフスタイルが両親の若いときのライフスタイルと違っているのは日本人の意

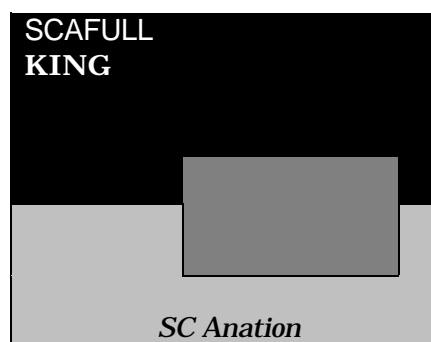
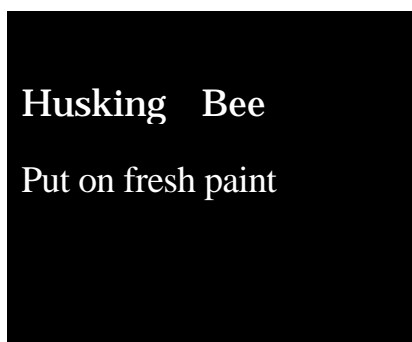
識の変容の結果でしょう。

5. 音楽

若者の意識に影響を与えるものは勿論彼らの生活のどこにでもあります。たとえば、音楽、映画などがそうです。店の名前、新聞の記事など、どこにでも横文字があります。CDのタイトルとか歌詞を見るとよくわかります。

日本の音楽バンドは英語の名前を使い、CDを英語でデザインします。

例：



しかし、演奏しているのは日本人です：

1. Masatumi Isobe

Tekkin

Reona Hiramoto

2. Akira Kurimoto

Masanari Goto

Keiji Masubuchi

Yoichi Murakami

Tadaaki Fukuda

．あるいは、バンドの名前は日本語だけど、歌詞には横文字が多い：

1. Utada Hikaru

“Distance”

歌：“Distance”

2. Seikima -

“1999 Black List”

歌：真昼の月～Moon at Midday

気になるのに聞けない

泳ぎつかれて君まで無口になる

[Moon at mid day leads the way](#)

焰もかすんだかげろうの中見失いそうな行方

会いたいのに見えない波に押されて

また少し遠くなる

途切れないように Keep it going ,baby

同じ気持ちじゃないなら tell me

無理はしない主義でも

少しならしてみてもいいよ

I wanna be with you now

二人で distance 縮めて

今なら間に合うから

We can start over

ひとつになれない

I wanna be with you now

いつの日か distance も

抱きしめられるようになれるよ

We can start sooner

やっぱり I wanna be with you

うつむいたまま彷徨う人よ上を向いて歩こう

ガラスの羽根飛べないけど綺麗だからいいのさ

わかりづらい未来だけどハレハヤ

真昼の月はいつも見ている Any time

小さな幸せも絶望も Always Yours

太陽野陰かくされてもお前が流す泪も見つめてる

暗闇にまかせうさをはらすのは醜さだけ極立つ

素直になるなら青空がいい案外答えはすぐさ

ガラス越しの地下に咲いたバラみたいなもんさ

カッコつけてウソもついてハレハヤ

真昼の月はいつも見ている Any time

小さな幸せも絶望も Always Yours

よどんだ雲がさえぎる日もお前が暗い時でも照らしたい

Moon at mid day leads the way

音楽のほかクリスマスやバレンタインデーなど、外国から日本人の生活にはいつてきた新しい祭りがあります。

6. おわりに

Margarett Mitt の調査によるとジェネレーションの観点から考えると世界には三つの文化があります。

- 1 . 父祖を手本にした文化。
- 2 . 現代人を手本にした文化。

3 . 誰も手本にしない文化 (それがとても危ない)

結論として、アメリカの音楽を聞いて、アメリカの映画を見て、横文字を読み使ってアメリカの現代者を手本にすることは必ず日本の若者の意識に影響を与えて変化させ、そして若者のライフスタイルを全部変化させます。それと同時に、日本の文化も変化して行くのです。

参考文献

Ruth Benedict “Chrysanthemum and the sword: Pattern of Japanese Culture”

“Hiragana Times” 1999,5

“100 tough Questions for Japan” Kodansha International Ltd.,Tokyo,1996

“ 安部公房全作品 ” 佐藤亮一

NHK 出版、 “ 学校の役割は終わったのか ” 2001年

“ 変わる若者職業世界 ” 田中千津子 2001 . 4 . 20

<http://www.jil.go.jp>

<http://www.us-japan.org>